津島市民病院
皮膚科医長熊野
友華

アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎とは

いくつかの原因が複雑にからみあって引き起こされる病気ですが、なかでもアレルギーを起こしやすい体質や皮膚バリア機能低下などにより炎症が起こる病気です。バリア機能とは、皮膚の1番外側にある角質が皮膚を保護したり、水分を保つ働きのことをいいます。そのため、外からのアレルゲン(ハウスダスト、ダニ)が皮膚の中に入り込みやすい状態になっています。

本来、侵入した細菌やウイルスなどから身を守るために働く免疫反応が、アトピー性皮膚炎の患者さんでは過剰に反応してしまいます。本来攻撃しないものに対しても不必要に攻撃することで炎症を起こしてしまいます。ほかにも、ストレスなどの心理社会的要因、不規則な生活、疲労、季節などが原因となりえます。

治療

スキンケア、薬物療法(外用薬、内服薬、注射薬)があります。

◆スキンケア

1. 皮膚の保湿
保湿剤(ヘパリン類似物質、白色ワセリンなど)で皮膚に潤いを与えます。
2. 皮膚の清潔
毎日の入浴・シャワーで皮膚を清潔に保ちましょう。
3. その他
爪を短く切り、なるべく掻か^かないようにすることが重要です。
衣類など直接肌に触れるものは、刺激の少ないもの(木綿)を選んでください。

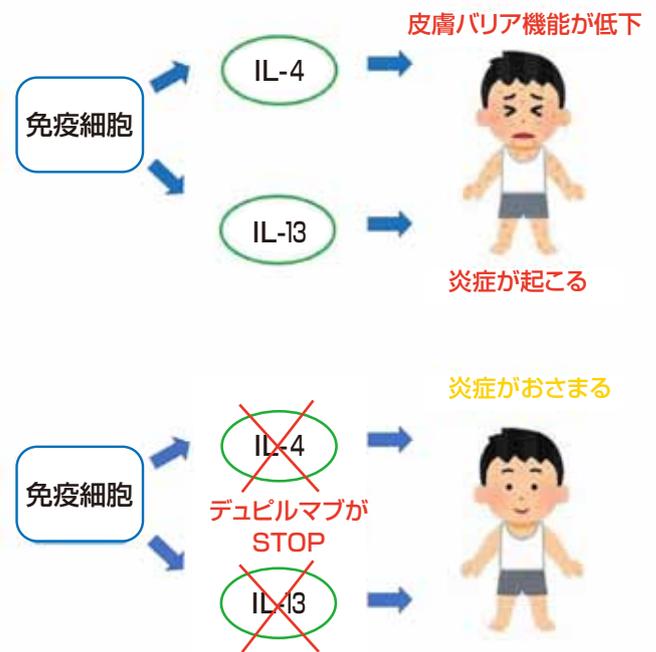
◆薬物療法

1. ステロイド外用薬
個々の皮疹に対して適切なステロイド外用薬を、悪化時は1日2回(朝、入浴後)使用することを基本とし、よくなったら1日1回、また間欠的に使用するなどし、ステロイド外用回数を減らしていきます。ほかにもタクロリムス外用薬やJAK阻害薬もあります。
2. 内服薬
かゆみで皮膚を掻いてしまうと皮疹の悪化をきたすた

め、抗ヒスタミン薬も有用です。

3. アトピー性皮膚炎の新しい治療薬

難治な症状の方に対して、2018年にデュピルマブという注射薬が発売されました。これはIL-4、IL-13というアトピー性皮膚炎の鍵となる化学物質の働きを抑えることで、炎症を抑え込むことができるという治療薬です。中等症から重症の方で使用することができます。ほかにも、内服薬のJAK阻害剤であるバリシチニブ、ウパダシチニブ水和物が使用できます。ウパダシチニブ水和物は12歳から使用することができます。治療費は高額療養費制度や付加給付制度の対象になります。



さいごに

アトピー性皮膚炎の治療の選択肢が広がり、個々の症状や生活スタイルによって治療が選べるようになってきました。また治療の基本となる外用剤の塗り方においても、塗る量の目安や塗り方にもポイントがあります。アトピー性皮膚炎で悩まれている方は、ぜひ一度専門医にご相談ください。